

トビウオ通信 (H20 第 8 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 19 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

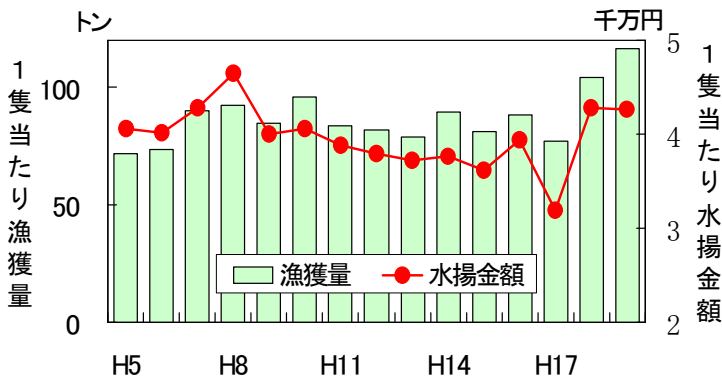


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

1 隻あたり漁獲量・金額、平年を上回る！

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 56 隻*の平成 19 年漁期 (平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 6,515 トン、総水揚げ金額は 23 億 8,727 万円でした。1 隻あたり漁獲量 (以下 CPUE) は 116 トン、水揚げ金額は 4,263 万円で、いずれも平年 (過去 10 ヶ年平均値 86.5 トン、3,826 万円) を上回りました (図 1)。今漁期は、大型クラゲが来遊したものの沖合域は比較的少なく、操業が順調に推移したことが、ソウハチ、アンコウの漁獲が好調だったことが漁況が好調であった主な要因と考えられました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 57 隻ですが、統計は 56 隻分の集計です。

ソウハチ好調！

ソウハチの CPUE は 30.7 トンで、前漁期・平年の 1.8 倍の漁獲がありました。特に 4、5 月にまとまって漁獲されました。また、ムシガレイの CPUE は 4.4 トンで、前漁期を 28%、平年を 15% 下回りました。一方、近年安定しているヤナギムシガレイの CPUE は平年並みの 1.8 トン、メイタガレイの CPUE は 2.5 トンで平年の 1.7 倍の漁獲がありました。カレイ類は全体的に堅調に推移しました。

ケンサキカ過去最低

ケンサキカの CPUE は 1.2 トンで、平年の 37% の漁獲に留まりました。また、ヤリカの CPUE で、平年を 8% 上回りました。

アンコウ好調！過去最高の水揚げ

ニギスの CPUE は 12.9 トンで、前漁期、平年を 20% 上回りました。キダイの CPUE は 7.7 トンで平年を 40% 上回りました。アンコウの CPUE は 12.9 トンで、平年の 2 倍の漁獲がありました。アカムツの CPUE は 1.5 トンで、前年の 45%、平年の 79% の漁獲に留まりました。

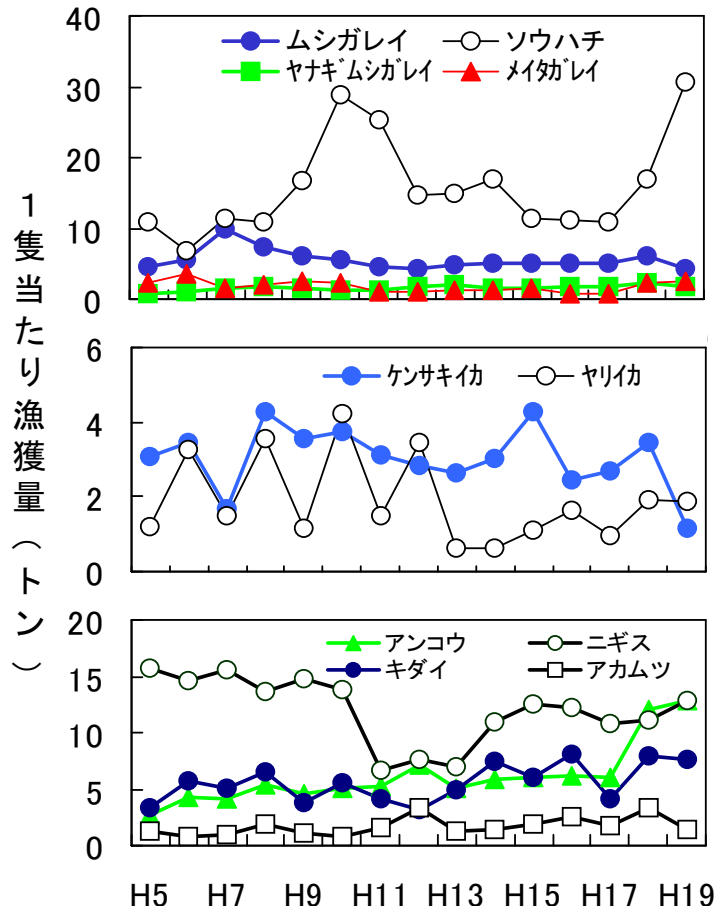


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

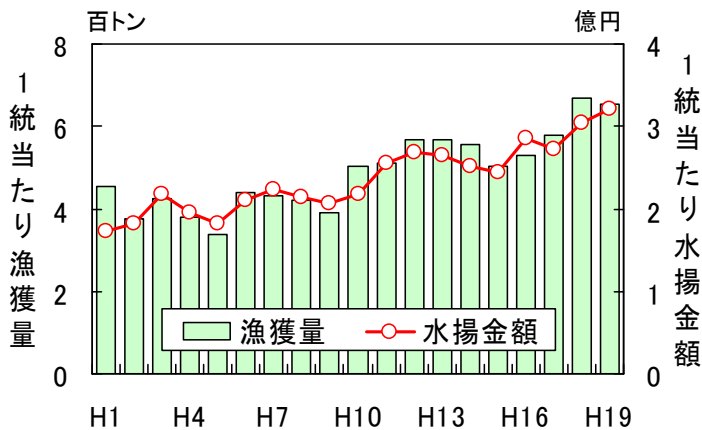


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

1統あたりの水揚金額 過去最高!

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数5ヶ統）の平成19年漁期（平成19年8月16日～20年5月31日）の総漁獲量は3,273トン、総水揚金額は16億647万円でした。また、1統あたりでは、漁獲量655トン、水揚げ金額3億2,129万円で、平年（過去10年平均値 537ト、2億5,704万円）を2割程度上回りました。大型クラゲが来遊したものの沖合域は比較的少なく、操業も順調に推移したこと、また主な漁獲対象であるカレイ類が好調に推移したことに加え、2月から4月にかけてマフグがまとまって漁獲されたことが水揚金額増加の主な要因です。

カレイ類好調!

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量（以下CPUE）は94トンで、前漁期を10%下回りましたが、平年を33%上回りました。

ソウハチのCPUEは72トンで、前漁期の1.3倍、平年の1.8倍の漁獲がありました。今漁期は冷水の張り出しが例年よりも強く、冷水を好む本種も比較的多く漁獲されました。またヤナギムシガレイのCPUEは28トンで、前漁期の1.2倍、平年の1.5倍の漁獲がありました。

イカ類低調

ケンサキイカのCPUEは17トンで、前漁期の59%、平年の35%に留まりました。秋漁は例年に比べ量は少なかったものの、まとまった漁獲がありましたが、春漁は不調に推移しました。一方、ヤリイカのCPUEは8トンで、前漁期、平年並みの漁獲に留まりました。

アナゴ・アカムツ低調!

アナゴのCPUEは28トンで、前漁期の55%、平年の74%に留まりました。アンコウのCPUEは51トンで、前漁期を25%下回りましたが、平年の1.5倍の漁獲がありました。また、キダイのCPUEは31トンで、前漁期を27%下回りましたが、平年を7%上回りました。

アカムツのCPUEは9トンで、前年の38%、平年の63%の漁獲に留まりました。

その他、今漁期は2月から4月にかけてマフグがまとまって漁獲され、この期間中、全漁獲物の2～4割を占めたことが特徴的でした。

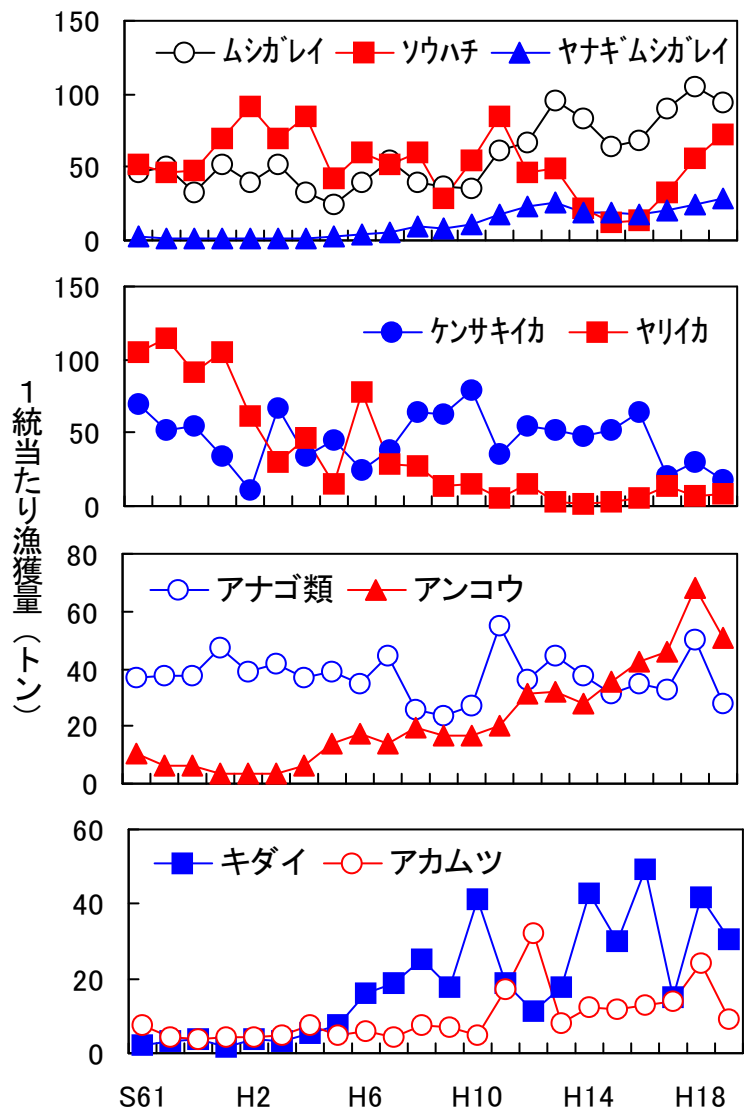


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向